

令和3年度 音楽科実践・研究計画

部 員	○大山光子, 小林葉子
-----	-------------

研究テーマ
音を奏でる楽しさを味わい、思いと音を重ねる子どもを育む学び

1 研究テーマについて

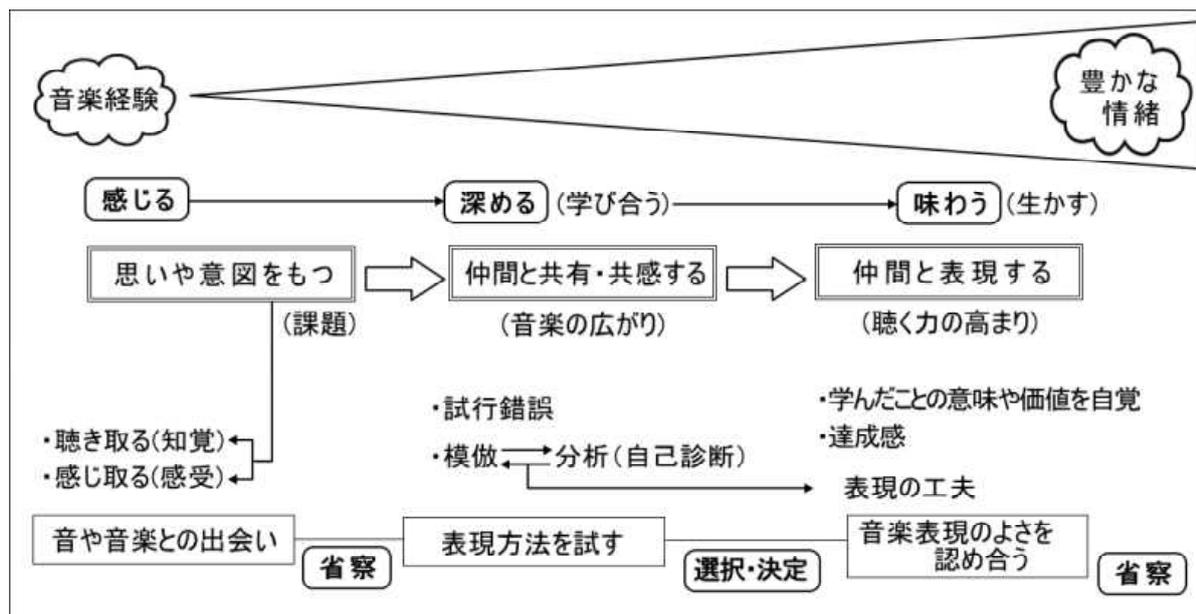
日常生活の中には、様々な音や音楽があふれている。放送で流れる曲を聴いて、その音色から楽器を演奏する真似をしたり、拍の流れに合わせて指揮をしたり、旋律を口ずさんだりするなど、子どもたちは自然に音楽を感じている。さらに、「この曲は、暗い感じがするから短調かな。」「呼びかけとこたえが、何回も出てくるね。」などと、音楽的な見方・考え方と結び付けて聴き取る姿も見られるようになってきている。音楽科では、子どもたちが将来にわたって生活や社会の中の音や音楽と豊かな関わりを築き、音楽を通じて生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを目指している。生活に潤いを与えてくれたり、癒やしの時間に欠かせなかったりする音楽経験をさせていきたい。

これまでの実践では、子どもの実態に適した題材構成の工夫によって、音楽科ならではの、仲間と共につくり上げる充実感や達成感を十分に味わう姿が見られたことが成果である。また、音楽づくりや歌唱表現において、修正する機会を十分に確保することが、よりよい音楽表現へとつながっていくことも分かった。よりよいものを目指す過程で、音楽を形づくっている要素に着目し、試行錯誤していく省察の場が欠かせないのである。その一方で、表現力の基盤となる一人一人の技能の見取り方や高めていくための手立てが課題となった。仲間との表現を楽しむには、正確な音程で歌ったり、きれいな音色で演奏したりすることが求められる。

このような成果と課題を踏まえ、今年度の研究テーマを昨年度から継続し、音楽経験から得られる感動を共有しながら仲間との表現を楽しむ姿を期待して「音を奏でる楽しさを味わい、思いと音を重ねる子どもを育む学び」とした。

音楽科における「自律した学習者」とは、自分の思いと知識や技能の習得を往還させながら、歌ったり演奏したり、鑑賞したり音楽づくりをしたりするなど、音を通して表現できる子どもと捉える。また、「学びをつなぐ」を、それまでの音楽経験をもとに、音楽を形づくっている要素とその働きの視点に注目して楽曲を表現したり、鑑賞したり、音楽づくりをしたりできることと捉える。

音楽科における自律した学習者を育てる学習のプロセスを以下のように考える。



図：音楽科 自律した学習者を育てる学習のプロセス

また、音楽科における「学びをつなぎ、資質・能力を高めていく子どもの姿」を次のように捉える。

- ・表現や鑑賞に必要な知識を更新し、新たな技能を習得しながら、生活の中に音楽を生かそうとする姿
- ・自分の思いをもち、表現したり鑑賞したりする中で、仲間と共有・共感するなどの関わりを大切にする姿
- ・知性と感性の両方を働かせて、思いをもって音楽に働きかける姿

2 研究の重点 <○は具体的な取組の例>

- (1) 自ら選択・決定し「できる」を実感する題材構成の工夫
- 「この音域なら声がよく出せる。」「このリズムなら正しく打つことができる。」など、これまでの音楽経験をもとに自分の力量に気づき、様々な表現方法を試すことができる場を設定する。
 - ・器楽表現では、演奏楽器の種類を増やしたり難易度別に数種類の楽譜を準備したりするなど、選択肢を増やす。
 - 音楽活動場面では、自分の役割を意識して表現できるように、少人数によるアンサンブル活動を意図的に取り入れる。
 - ・技能の向上のために、少人数または一人で表現する場を意図的に設け技能を見取る時間を確保し、音楽的な見方・考え方の視点で教師側から価値付けを行っていく。
- (2) 音楽的な「見方・考え方」を働かせて、「聴く力」を育む省察の工夫
～聴く耳を育てる～
- 音楽活動においては「演奏する役」にも「聴き役」にもなり、フィードバックする協働的な省察場面を意図的に設ける。
 - ・豊かな情緒を育むことができるように、音楽的な要素に迫って聴き合い、根拠をもって互いの音楽表現のよさを認め合い、伝え合える言語活動を取り入れる。
 - ・きれいな音色や正確なリズムなど音楽的な要素に視点をしぼり、繰り返し確かめ合いながら聴き合う活動を取り入れる。
 - よりよい音楽表現をするためのヒントを見出し、次の課題へとつなげていくことができるように、自分たちの演奏を録音・録画し客観的に聴く活動を設定する。

3 研究・研修計画

時期	主な研究・研修行事	研究・研修内容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科部会 ・附属中学校公開研究協議会(6/4) ・附属小学校公開研究協議会(6/18) 提案授業(大山: 5A) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践・研究計画の立案 ・授業づくり, 授業力向上 ・授業を通して重点事項の検証
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・研究リーフレット執筆 ・第2回校内研修会(10/19) 提案授業(小林: 1B) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践・研究のまとめ ・実践・研究計画の修正
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・部内研修会 ・教科部会 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業づくり, 授業力向上 ・次年度の実践・研究計画の立案

通年：年間指導計画及び資質・能力表の加除・修正